

●大阪府堺留学生会館オリオン寮春期入居者募集中！

●第25回ワン・ワールド・フェスティバルにブース出展！

- ◇ 大阪府外国人情報コーナー
- ◇ バナー広告募集
- ◇ 賛助会員募集
- ◇ 2025万博 大阪・関西へ

【O1】年頭所感

広域連携による外国人への多言語支援をめざして
公益財団法人 大阪府国際交流財団 理事長 小高 将根

あけましておめでとうございます。

昨年は、当財団の事業にご協力、ご指導いただき、ありがとうございました。当財団では、在阪、来阪外国人の安全・安心に向けた取り組みとして、日頃から多言語による“外国人相談”を実施するとともに、近年多発する大規模災害への備えとして、“災害時における外国人への多言語支援の強化”に取り組んでいます。

大規模災害発生時には、外国人の方に行政情報を円滑に提供するため、大阪府と共同で「大阪府災害時多言語支援センター」を設置することとしており、これまでもセンターの円滑な設置・運営のための実地訓練を行うなど、準備を進めて参りました。

しかしながら、大規模災害発生時に、大阪府内だけで支援を担うボランティア等の人材を確保することは困難であるため、引き続き、近畿地域国際化協会連絡協議会*1、全国的には地域国際化協会連絡協議会*2との広域的な連携の強化を図るとともに、人材を相互に派遣・要請できる体制整備に取り組んで参ります。

また災害時等の多言語支援を進めるため、「やさしい日本語」への取り組みも強化し、府内への普及を推進して参ります。

本年も、様々な取り組みを進めて参りますので、皆様のご協力ご指導をよろしくお願い申し上げます。

*1 近畿ブロックの地域国際化協会構成

*2 全国6ブロック（北海道・東北、関東、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）の地域国際化協会構成

【事業報告】

★ 平成29年度大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業(安藤プログラム) ★

前号で紹介した8名の研修生は約1か月のプログラムを無事終了し、10月19日に帰国しました。今年度の研修にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

研修後半で実施した府内建設会社 4 社((株)大林組、(株) 銭高組、(株)竹中工務店、大和ハウス工業(株))での 10 日間にわたる企業研修では、日本の職場環境を知り、伝統と最新の建築技術を学ぶことができたようです。

また、安藤忠雄氏表敬訪問では、安藤氏から、「建築家は、建築以外にも経済、芸術、環境等幅広く学ぶように」とのアドバイスをいただきました。若き建築家である研修生は、自身で考え、答えを探り、見つけ出すことの重要性を感じ、多くの刺激と教訓を得たようです。

研修で学んだ知識、経験や出会いを活かし、アジアと日本を結ぶ架け橋となってくれることを大いに期待しています。

《安藤プログラムを終えて
ジャオ ヤーティンさん（中国研修生）》

中国に戻り、現在働いている建築設計会社の展覧会の準備で、忙しい毎日を送っています。

大阪での 1 か月は、自身や仕事を見直す機会となっただけでなく、安藤氏の建築から、空間の利用法や建築と環境の関係性について、新たな見方ができるようになりました。

近畿大学での建築ワークショップや(株)竹中工務店での研修では、住宅建築、また他の研修生からは、他国の建築や文化を学びました。

帰国後、安藤氏設計の「上海保利大劇院」を再訪し、以前と違った視点から設計やコンセプトを理解することができたように思います。また、インドの研修生に勧められたインド人建築家バルクリシュナ・ドーシ氏の展覧会を訪れるなど、他国の建築への理解も深めています。いつか大阪で出会った人々と、大阪のおいしい料理を囲み、再会することができたらと思っています。

★ 近畿地域国際化協会連絡協議会 副会長研修 ★

■「災害時広域支援シミュレーション訓練」

実施日：11 月 16 日(木)

参加者：23 名

近畿地域国際化協会連絡協議会では、災害時における外国人支援ネットワーク研究会を開催しており、取り組みのひとつとして毎年、副会長団体主催の研修を実施しています。

今年度は、OFIX が副会長として、訓練を実施しました。災害時に複数の会員団体から支援活動への協力を求められた場合や被災地が広範囲に及んだ場合を想定し、複数の団体がそれぞれの地域で支援活動を行う際の効率的な連携について、シミュレーションしました。

参加者からは、平時から取り組むべきことや、国際化協会だけでは解決できない課題など、多くの意見がありました。

講師の（特活）多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井 佳彦氏からは、「課題に取り組むことはもちろん、いつまでにそれを解決するのかという目標設定が大切」とのアドバイスをいただきました。

協議会では、今後も災害時の外国人支援体制の整備に向けて取り組んでいきます。

★ 災害時外国人支援（防災・災害時訓練） ★

■第2回大阪府災害時外国人支援ネットワーク会議

実施日：11月28日（火）

相談者：19名

今年度2回目(1回目は83号に掲載)となる本会議は、大阪府域での大規模災害発生時に、在住外国人等への円滑な多言語支援をめざし、府内市町村・国際交流協会等で情報交換や知識の共有等を行うことを目的として開催したものです。

「災害時外国人支援のための他団体等との連携について」と題した事例発表では、八尾市、(公財)とよなか国際交流協会、城陽市国際交流協会(京都府)から、他市国際交流協会や大学、NPOとの連携について、取り組みを発表していただきました。

特に今回は、城陽市国際交流協会に来ていただいたことで、大阪府域だけではなく、近畿圏での支援の取り組みを認識できた会議となりました。

■豊中市災害時多言語支援センター訓練〈OFIX共催事業〉

実施日・参加者：12月1日（金）18名、15日（金）16名

豊中市、(公財)とよなか国際交流協会(ATOMS)及びOFIXは、初めて「豊中市災害時多言語支援センター設置・運営訓練」を2日間にわたり実施しました。

訓練では、豊中市とATOMSの職員が中心となり、多言語情報提供のための日本語原稿作成や、避難所巡回訓練を行うとともに、センター設置・運営マニュアルを再検討し、センターの設置場所や避難所巡回の方法等、多くの課題を見出しました。

講師の(特活)多文化共生マネージャー全国協議会 副代表理事 高木氏からは、被災外国人の方の状況把握の仕組みづくりについて、多くのアドバイスをいただきました。

■平成29年度災害時通訳・翻訳ボランティア研修

実施日：12月6日（水）

相談者：12名

今回の研修では、ワークショップ「読めないお知らせ」を行いました。参加者が理解できない言語で書かれた文章から、数字などの限られた情報をもとに内容を推察する訓練です。日本語のわからない外国人の方が、必要な情報を得るために苦慮する状況を体験し、伝わりやすい言葉によって情報を提供することの大切さを学びました。

★ 関係団体とのネットワーク ★

■立命館大学主催 国際交流フェスタ「Asia Week」

実施日：10月22日（日）

場 所：立命館大学大阪いばらきキャンパス（OIC）

OFIX は、立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催された、地域と大学の国際交流フェスタ「Asia Week」に、「地域とつながろう - サポートする・サポートを知る-」というテーマでブース出展しました。

ブースでは、留学生を主な対象とした、日本語と英語による外国人相談コーナーを設けるとともに、“OFIX ボランティア” や “国際理解教育外国人サポーター派遣” などの OFIX 事業についてパネルやチラシで紹介し、学生等の方にボランティアやサポーターへの登録を働きかけました。

■第 20 回ふれあい交流祭り

実施日：11月23日（木・祝）

場 所：国際交流基金関西国際センター

本イベントは、関西国際センター研修生と地域の方々とのふれあいの場として、関西国際センター研修生交流支援協議会*が毎年開催しています。研修生による自国紹介ブースに並んで、今年は OFIX も出展しました。オーストラリア出身の OFIX 国際交流員が、国旗や写真で自国を紹介するとともに、国際理解教育の模擬授業を行い、いつもと少し違う新鮮なイベントとなりました。

*岸和田以南の国際交流 10 団体及び OFIX で構成

★ 留学生支援 in オリオン寮（大阪府堺留学生会館） ★

■オリオン寮避難訓練

実施日：11月18日（土）

参加者：オリオン寮生他 38 名

オリオン寮と近隣の大阪市立大学国際交流宿舎の寮生は、毎年合同で避難訓練を実施しています。

オリオン寮の自炊室内での火災発生を想定した避難訓練や、堺市北消防署による消火器の使い方や避難方法についての指導の後、全員で災害時指定避難所となっている西百舌鳥小学校まで、雨の中、約 15 分歩いてルートを確認しました。

他にも、地震発生時の対応や避難時の注意等“災害時の備え”を学ぶ訓練となりました。

■オリオン寮地域交流会（ウインターパーティー）

実施日：12月9日（土）

参加者：オリオン寮生、近隣住民他 55 名

オリオン寮では寮生と近隣住民の方々との親睦を深めるために、年に 2 回、地域交流会を開催しています。今回の企画・運営を担当したチューターにレポートしてもらいました。

《肥垣津 雄日（こえがいつ ゆうひ）さん（日本）》

パーティーでは、日本語、英語、中国語での落語披露や自己紹介を兼ねたビンゴゲームなどを行い、寮生と近隣の方が、国籍や文化の違いを越えて大いに盛り上がりました。このパーティーをきっかけとして、日頃、道路やスーパーで会った時のあいさつ、会話につながり、オリオン寮での

充実した生活、ひいては日本での留學生活の想い出になればと思っています。

【03】 高等教育機関留學生担当者防災ワークショップ
講演 「熊本地震における留學生支援活動について」

OFIX が取り組む災害時における外国人支援体制整備の一環として、昨年 10 月 20 日（金）に「高等教育機関留學生担当者防災ワークショップ*1」を開催しました。

2016 年 4 月に起こった熊本地震の際、熊本大学の教員として、留學生支援に尽力された神戸大学国際人間科学部助教 高橋進之介氏を講師にお招きし、当時の体験に基づいた「熊本地震における留學生支援活動について」の講演をしていただきました。講演内容は、ワークショップ参加者間の意見交換時に、大いに役立てていただけました。以下、講演概要をご紹介します。

- *1 大阪府、(公財)大遊協国際交流・援助・研究協会*2、CARES-Osaka*3 との共催
- *2 (公財)大遊協国際交流・援助・研究協会の HP
⇒ <http://www.daiyukyo-kokusaikoryu.or.jp/>
- *3 CARES-Osaka の HP ⇒ <http://www.kansai-u.ac.jp/CARES-Osaka/>

「熊本地震における留學生支援活動について」
神戸大学 国際人間科学部 助教 高橋 進之介氏

1.避難所と留學生 — 公的情報の効果的発信が要 —

震災後、熊本大学では 3 つのキャンパスのうち、「大江」と「黒髪」の 2 つのキャンパスに避難所が開設された。

同大学の留學生は、日本語を理解しない方が多く、情報取得は主に個人と個人、または知人との SNS によるものだった。同大学でも災害マニュアルをウェブサイトアップしていたが、大学側が発信しない限り、留學生からアクセスする可能性は低い。

震災時に、大学や行政機関等が発信する公的情報は留學生被災者にとって重要であるが、留學生から情報を取りに来るであろうと想定していると何も機能しない。公的な情報を、いかに効果的に発信するかは、当時の大きな問題であり、今後の課題となった。

2.安否確認 — 留學生の安否確認は誰が担うのか —

震災直後は、大学の担当部局、組織は機能しておらず、安否確認は、独自の個人的な調査と連絡によるものとなった。

私が勤務していた同大学院のプロジェクトの例では、平時から、私を含む特任教員が学生のメンタル面をサポートする役割を担っていた。一方、このような震災時では、“メンター教員”全員が、支援側に回れるわけではなく、チームのリーダー的な方が、自主的に行動し、担当学生一人一人にメールや電話による原始的な方法で安否確認を行った。

そもそも、避難所における“安否確認活動は、誰が担うのか”

という問題点に行きつく。

3.大学教職員の役割 ー避難所運営の実際ー

同大学の避難所運営は、自主的に支援に参加できる教職員や留学生を含む学生等の有志で行った。大前提として、教職員も被災者で、教職員全員が一丸となって運営を担うのは理想論であることをご理解いただきたい。

また、有志であっても、動ける方がどこまで、どのように動くのかを“組織立てる”ことが大事であって、今回の例では、教職員と学生等が、現場の人材コーディネートや情報共有を行うなど“現場監督体制”がよく機能していたと言える。

4.留学生ボランティア活動 ー留学生が支援者と被災者をつなぐー

避難所も、開設から時間が経過すれば、留学生をはじめとする外国人被災者が、支援する側として積極的に動くようになる。例えば、ヨガクラスやラジオ体操などが行われ、活動することによって“交流するきっかけ”が生まれた。これを契機に、留学生ボランティアの方には、安否が未確認の同胞の留学生や自国から来た方、違う国であっても親しい友人などの情報を取得してもらうことを依頼し、留学生同士のケアが一番効果を発揮した。

このように、支援者と被災者間の仲介に入る方(エージェント)が重要で、特に日本語を解し、好意的に有志で活動してくれる留学生はとても貴重な存在で、日頃から非常に強いつながりを築いておくことが必要だ。

5.他団体との連携 ー避難所の課題：外部支援者のコーディネーター

今回の例では、地震発生直後にDMAT（災害派遣医療チーム）や医療従事者、他都道府県・市町村からの応援の方が支援に来られ、助けていただいた。一方、様々な外部支援者、例えば、複数の医療関係者が同じ避難者に同じ質問をしたり、またマスコミの取材など、避難者にとってはストレスになる場合もある。

そのため、避難所の運営については、外部支援者やマスコミ、ボランティアの方のコーディネーター等々が重要で、現場体制整備は今後の課題として挙げられる。

最後に ー復興に向けてー

復興に終わりというものではなく、震災から時間が経過するにつれ、非日常の状態から日常に“再建”していかなければならない。震災前と同じ状況に戻す“復帰”は非常に難しい。震災により物的損壊はもちろん、時間が経過するそれぞれの段階で精神的また身体的ダメージがあり、それぞれのニーズに合わせたケアが必要となる。

被災者の方と我々のような支援者側が、お互いを受け入れ協働していくために、復興に向けてのプロセスが、相互の関係性を作り直すきっかけにもなる。

復興とは、“復帰”するというよりも、自分たちで新しく創っていく“再建”と捉えることがふさわしいと考える。

【04】

◆下記の4団体とOFIXとの共催で一日相談会を実施しました。

弁護士、行政書士、社会保険労務士などの専門相談員の方が、OFIX ボランティア等による通訳のサポートにより来場者の相談に対応しました。地域の外国人住民の方や日本語教室に通う生徒の方が相談に来られました。

- ・高石市 10月19日(木) 高石市役所
- ・堺市 10月31日(火) 堺市立国際交流プラザ
- ・四條畷市 11月10日(金) 四條畷市市民総合センター
- ・藤井寺市 11月22日(水) 藤井寺市立市民総合会館本館

◆下記の通り、一日相談会を開催します。

(1)大東市・OFIX 共催「外国人のための無料相談会 in 大東」

日時：3月11日(日) 10時-16時

場所：大東市立生涯学習センター「アクロス」

(2)阪南市・OFIX 共催「外国人のための無料相談会」

日時：3月19日(月) 18時-21時

場所：阪南市役所 別棟2階

※相談内容 (1)在留資格、国民健康保険、国民年金、税金、労働条件、就労、生活一般 (2)在留資格、法律、生活一般等

※対応言語 (1)英語、中国語、ベトナム語
(2)(1)に加え、韓国・朝鮮語、スペイン語

OFIXでは、現行の「外国人一日相談会」を、来年度から複数の市町村等との共催による“外国人住民向け地域合同一日相談会”へと変更する予定です。詳細は決定次第、OFIX HPに掲載の予定です。

【お知らせ】

●OFIX ホームページ 英語ページバナー広告募集中！

OFIX ホームページ 英語ページのトップ画面をリニューアルし、バナー広告を新設しました。

3月掲載分まで、トライアルキャンペーンを実施中で、お得な料金でご掲載いただけます。

詳しくはこちら⇒ <http://www.ofix.or.jp/english/>

●大阪府堺留学生会館オリオン寮春期入居者募集中！

OFIX が運営する「大阪府堺留学生会館オリオン寮」では、4月からの入居者(男性20室、女性23室)を募集しています。

詳しくはこちら⇒ <http://www.ofix.or.jp/accept/support/orion.html>

●第25回ワン・ワールド・フェスティバルにブース出展！

「共に生きる世界をつくるために、一人ひとりができること」をテーマに、今年もワン・ワールド・フェスティバルが開催されます。
OFIX は、北区民センターにブースを出展します。

日時：2月3日（土）4日（日）10時～17時
場所：北区民センター・扇町公園・カンテレ扇町スクエア

詳しくはこちら⇒ <http://www.interpeople.or.jp/owf/>

【大阪府外国人情報コーナー】(OFIX 内)

外国人のための無料相談窓口です。
(在留資格、労働、医療、福祉、生活などの相談)

相談時間 9時～17時30分（月～金 ※祝日除く）
休憩（12時15分～13時）

専用電話 06-6941-2297

相談言語 英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語
スペイン語、ベトナム語、フィリピン語、タイ語、日本語

E-mail jouhou-c@ofix.or.jp ※日本語、英語のみ

≫≫ OFIX ホームページ バナー広告募集中！
日本語ページ 1枠1か月 10,000円
<http://www.ofix.or.jp/banner.html>
英語ページ 1枠1か月 5,000円
<http://www.ofix.or.jp/english/banner.html>

≫≫ OFIX の賛助会員になりませんか？
法人 1口 年額 100,000円 個人 1口 年額 3,000円
⇒ <http://www.ofix.or.jp/ofix/support/index.html>

≫≫2025 万博 大阪・関西へ

● 次回 OFIX ニュース(第86号)は、平成30年4月15日発行(予定)です

★大阪府メールマガジン情報★ 『GEO(Global E-net Osaka)』
大阪で開催されるイベント・大阪の名所・大阪に関する豆知識等を
紹介するメールマガジンです！
⇒ <http://www.pref.osaka.jp/kokusai/geo/index.html>

★その他の募集・お知らせ★
※国際理解学習の授業(小中高)に国際交流員や留学生等を派遣します
⇒ <http://www.ofix.or.jp/training/education/index.html>
※OFIX ボランティアの登録制度のご紹介
⇒ <http://www.ofix.or.jp/accept/volunteer/system.html>
※ご寄附のお願い
⇒ <http://www.ofix.or.jp/ofix/donation.html>

=====

≫≫ OFIX ニュースについてのご意見、ご感想はこちら
⇒ E-mail info@ofix.or.jp

≫≫ 配信中止、配信先変更はこちら
⇒ http://www.ofix.or.jp/info/mail/register_j.html

≫≫ 「OFIX ニュース」印刷版はこちら ※写真入り
⇒ http://www.ofix.or.jp/info/mail/backnumber/pdf/mail_japanese_no85.pdf

≫≫ バックナンバーはこちら
⇒ <http://www.ofix.or.jp/info/mail/backnumber/index.html>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

発行：(公財)大阪府国際交流財団(OFIX)
〒540-0029 大阪府中央区本町橋 2-5 マイド-ムおおさか 5 階
TEL 06(6966)2400 FAX 06(6966)2401
<http://www.ofix.or.jp/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆